

箱根ラリック美術館 冬イベント

「ラリック ウインターライト レビュー2011」

2011.10

箱根ラリック美術館では、冬イベント「ラリック ウインターライト レビュー2011」を2011年12月1日(木)～2012年3月31日(土)まで開催します。

ラリックから息子、孫娘へ。受け継がれた才能が生んだ作品をライトアップ

箱根ラリック美術館では、特別展示「ル・トラン」として、ラリックがガラスパネルで車内を装飾したオリエント急行のサロン・カーを、作品として公開しています。この度のイベント「ラリック ウインターライト レビュー」では、華やかな車内に、この冬だけの演出を施しました。

交通網が一気に発達し、人々が自由と新たな空気を求めて、さかんに移動するようになった時代。そんな1920年代に登場し、きらびやかに装った紳士淑女を乗せて走っていたのが、特別展示「ル・トラン」の車両です。この車両は当初、南仏行きの特急列車「コート・ダジュール号」として運行され、その後オリエント急行として活躍しました。

イベントでは、宵闇をイメージしたロマンティックな車内で、作品がほのかに浮かび上がっているかのようにライトアップされます。今年、煌めきながら空間を彩るのは、ラリックの息子と孫娘の作品です。父ルネを助け、ラリック社の経営を切り盛りする一方で、デザイナーとしても腕を振るい、より新しく現代的な作品を生み出していった息子のマルク・ラリック。その娘、マリ＝クロードも才能を色濃く引き継ぎ、祖父ルネや父マルク亡き後のラリック社でデザインを手掛けました。今回は、これまでお見せする機会が少なかった才能豊かな二人の作品を展示します。

列車の旅華やかなりし時代にタイムスリップしたかのような空間の中で、ルネ・ラリックから息子、孫娘へと受け継がれた才能の共演を、カフェを楽しみながらゆっくりと鑑賞していただけます。

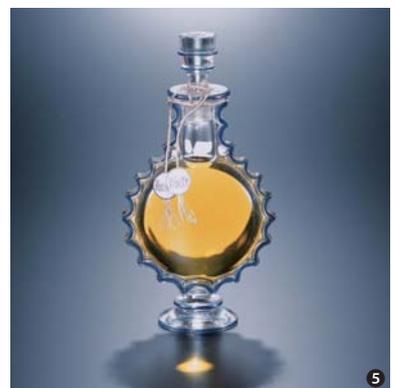
さらに今回、ル・トランのデザートセットに「フォーチュン・ケーキ」を用意。焼き菓子にフェーブと呼ばれる人形をしのばせ、切り分けて食べる時、当たった人が皆の祝福を受けるというフランスの伝統菓子「ガレット・デ・ロワ」にちなんだものです。ケーキの下に美しいミュージックが隠れていた方には、当館オリジナルポストカードをプレゼント。



④マルク・ラリック作
香水瓶「クール・ジョフ
(喜びの心)」
ニナ・リッチ社 1946年
⑤マルク・ラリック作
香水瓶「ルケット(一途
な願い)」
ウォルト社 1944年



①過去の展示風景
(窓の外にライトア
ップされた作品)
②オリエント急行
の外観
③車内で楽しむデ
ザートセット(イメ
ージ)





マルク・ラリック (Marc Lalique 1900-1977)

マルク・ラリックは、20代の頃から父ルネ・ラリックの事業を手伝い、ラリック社のアメリカ進出を成功させた人物です。

1945年に父親が亡くなり経営を引き継ぐと、マルクはまず、第二次世界大戦で大ダメージを受けた会社の立て直しを始めます。時代の要請に見合った素材として、透明度の高いクリスタルガラスを導入し、よりシンプルでスタイリッシュなデザインを生み出そうとしました。それと同時に、父のオリジナル・モデルを元に、別ヴァージョンの作品もコレクションに加えたのです。マルクがニナ・リッチ社のためにデザインした香水瓶「ルール・デュ・タン (時の流れ)」は、現在でも生産が続けられるロングセラーとなっています。



マリ＝クロード・ラリック (Marie-Claude Lalique 1935-2003)

マリ＝クロード・ラリックは父マルクに続く、ルネ・ラリックの直系の孫にあたります。彼女は、父マルクと共にラリック社のデザインを担当していましたが、父親が亡くなると、社内唯一のデザイナーとして、一手に仕事を引き受けるようになりました。

マリ＝クロードは、幼い時から祖父や父の作品に囲まれて育ちました。ラリック家の伝統を受け継いで、父親が取り入れた透明なクリスタルガラスと、祖父が得意としていたフロスト（艶消し）ガラスをうまく融合させ、シャープでありながら柔らかな雰囲気が漂う作品を生み出しました。

1992年にフランスのアルベールヴィルで開催された冬季オリンピックでは、メダル制作を担当。金、銀、銅のフレームの中にクリスタルガラスが組み込まれた斬新なデザインは、話題的となりました。



アンティーク ミニチュアコフレ・セットを特別販売

ルネ・ラリックにオマージュを捧げ、毎年一点だけ発表される香水の限定クリスタルボトル。その歴代の名作は、かわいらしいミニチュアサイズとなって、セット発売もされています。今回は、以前好評を博した非常にレアなミニチュアコフレ・セットを、このイベントに合わせて特別販売します。

※この商品は“アンティーク”の扱いとなりますので、香水として直接肌に着けてお楽しみいただくことはできません。



アンティーク ミニチュアコフレ・セット
(価格未定)

「ラリック ウインターライト レビュー2011」 概要

- 期 間 2011年12月1日(木)～2012年3月31日(土)
- 会 場 箱根ラリック美術館 特別展示「ル・トラン」
- 出展作品
 - ・マルク・ラリック作 香水瓶「クール・ジョワ」
ニナ・リッチ社 1946年
 - ・マルク・ラリック作 香水瓶「ルケット」
ウォルト社 1944年

など約25点

特別展示「ル・トラン」

- 公開時間 10:00～17:00 (最終予約16:00)
- 所要時間 約45分間 (映像説明、車内見学)
- 定 員 1回につき20名
- 予 約 当日現地予約制
- 料 金 1名2,100円 (コーヒーor紅茶、デザート付き)
※オリエント急行のみ利用の場合、入館料は不要です。



LALIQUE MUSEUM, HAKONE



施設概要

施設名称	箱根ラリック美術館 (LALIQUE MUSEUM, HAKONE)
所在地	〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1 TEL : 0460-84-2255 FAX : 0460-84-2271 URL : www.lalique-museum.com
開館日	2005年3月19日 (土)
営業時間	午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)
営業日	年中無休 (展示替のため臨時休館あり)
美術館入館料	大人 1,500円 高校生、大学生、シニア (65歳以上) 1,300円 小学生、中学生 800円 ※2010年4月29日(木・祝)より、レストラン、ショップ、庭園の入場は無料になりました
施設内容	敷地総面積 13,004.50㎡ 美術館棟 2,601.30㎡ ミュージアム・ゲート 70.78㎡ 特別展示 オリент急行サロンカー カフェレストラン・LYS 1,083.45㎡ 店内100席 テラス100席 ショップ・パッサージュ 827.93㎡ 庭園 (池、小川、蝶の森)
専用駐車場	第一駐車場 (100台) 1日300円 第二駐車場 (100台) 無料
アクセス	電車・バスをご利用の場合 ■箱根登山鉄道「箱根湯本駅」より、箱根登山バス「湖尻・桃源台」行きにて約30分 「仙石案内所前」下車すぐ ■小田急箱根高速バス「新宿駅」より約120分「箱根仙石案内所」下車すぐ ■箱根施設めぐりバス「箱根ラリック美術館」下車すぐ ■小田急箱根高速バス羽田線「羽田空港」より「横浜駅東口バスターミナル (そごう横浜店)」 「御殿場駅」経由約150～165分 「箱根仙石案内所」下車すぐ 車をご利用の場合 ■東名御殿場I.C.より乙女峠経由、仙石原まで約20分
設計・施工	鹿島建設株式会社、株式会社丹青社
事業主	株式会社ル・ミューゼハタ
本社所在地	東京都中央区銀座4丁目4番5号
代表者	代表取締役 旗 功泰

本件及び取材等に関するお問い合わせ先 箱根ラリック美術館PR担当:株式会社小田急エージェンシー tel:03-3344-5988
貴誌(紙)・貴番組にて掲載いただく際の読者からのお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 tel:0460-84-2255



LALIQUE MUSEUM, HAKONE